



新年に思う

中友会会長 草野 一紀

皆様、新年おめでとうございます。昨年十一月の総会に代わる役員会での推薦・承認を経て会長に就任しました草野一紀と申します。どうかよろしくお願いたします。

さて、昨年はコロナ禍により、本会の活動は大きく制約を受けました。最重要の行事とも言える合祀慰霊祭の実施の年ではありましたが、延期せざるを得ませんでした。昨年の暮れになって、猛威をふるったデルタ株もようやく収束に向かい、新年こそは支障なく会の活動が推進できると期待したのも束の間、オミクロン株なる新型ウイルスの市中感染が始まっています。この先どのような状況になるかは不明であり、六月四日に予定している合祀慰霊祭が気がかりですが、会としてはこれ以上の延期は選択肢として考えていません。ただ、参列される方々の健康が第一ですので、式は密にならないよう、ゆとりをもった会場設営も視野に入れるなど、慎重に対応してまいります。

本会の活動で制約を受けたのは慰霊祭だけではありません。すべての会合が縮小や延期など、従前とは違った対応となりました。校長会との交流

【発行所】
中友会
 港区西新橋1-22-13
 全日本中学校長会館202号室
 東京都中学校長会事務局内
 TEL 03-3504-8705
 FAX 03-3504-8706

会則第2条

● 親 睦
 ● 互 助
 ● 生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>

も同様です。コロナによって学校現場の情報が私たちの耳に届く機会がほとんどなくなりました。今、現職の校長先生方がどんな課題に取り組む、どんな苦勞をされているのかを知っている会員は少ないのではないのでしょうか。コロナの感染から生徒を守るための対応、新学習指導要領全面実施への対応、GIGAスクール構想で生徒一人に一台配付された端末の活用と活用環境の整備、すでに始まっているデジタル教科書の活用など、私たちの時代には経験したことのないような多様な課題と向き合い、学校の総力をあげて取り組んでおられることと思います。SWやSC、部活動支援員など学校を支援する要員が配置されてきたことは朗報ではありますが、そうしたメンバーを効果的に活用し、チーム学校としての総合力を高めていくマネジメント力が校長には求められるし、そのこともストレスになっていると思います。

私たち中友会は、会員の親睦と互助、それに生涯学習の充実を目的としており、現職の校長先生方を直接支援することはありません。しかし、会

員が会報等を通して発信している経験談や生涯学習関連の情報などで、校長先生方に何か役に立てるようなものがあるのではないだろうかと考えています。教育から離れ、今までできなかった趣味に関わる活動や新たな事へのチャレンジなど、生涯学習の内容は様々ですが、少なくとも、学校教育のことが気にならない会員はいないと思います。私たちが学校の状況を知り、校長先生方の悩みを理解することに意味があると思っています。そして、そのことが学校を応援する気持ちにつながるのではないのでしょうか。少なくとも、校長先生方が、「自分たちの後ろには、応援してくれるたくさん先輩方がいる」、そんな思いを感じさせられる中友会であればいいと思っています。会員だけでなく、校長先生方にとっても魅力的な中友会となるよう、会員の皆様の知恵をお借りしながら会の活動を工夫していきたいと思えます。

もう一つの懸念は、前会長が指摘しておられた本会の次の三つの課題です。①幹事選任についての制度改革。②会則の見直し。③ウイズコロナに相応しい新たな中友会の活動。①については、校長会との交流が以前のような状態に回復してから、理解が得られるように努めたいと思えます。②については会費値上げも含まれているので、慎重に考えなければなりません。今年度の決算も踏まえて継続して検討したいと思えます。③については、結論を留保したいと思えます。③については、コロナと関係なく幹事の負担軽減の意義も含めて、オンライン、リモートワークを活用した会の運営について、その実現に努力いたします。様々な思いを述べましたが、コロナの沈静化を願いつつ、会の活性化に向け努力してまいります。